

町内会への学生参加促進

足元からまちづくり

To promote student participation in the neighborhood association
Let's community planning in Hachioji

創価大学 EIGHT PRINCE

小松隆也、青木唯良、田坂達也、藤原正博、飛田晴香
指導教員　國島弘行

キーワード：町内会・地域活性化・学生と高齢者・つながり・人材育成

はじめに

私たちのゼミでは町おこしの研究をしている。地域の活性化には人間関係の構築、近隣住民とのつながりが必要不可欠である。そこで、八王子の現状を分析し、八王子が活性化するためのプランを考えた。その際、学生と八王子で暮らしている住民との関わりがあまりなく、学生の町内会への参加もほとんどないという現状が浮かび上がってきた。八王子は学園都市であり、他県から学生が集ってくるため、地域住民との心の隔たりがあるのも原因としては大きいだろう。そこで私たちは学生の町内会に参加を促すための取組みを考える。

1. 学生の町内会参加の状況

町内会への参加を学生にも促すために、情報を学生にも届けていく事が必要である。現状として、学生が町内会の存在を知らないケースが多い。アンケート調査によると約6割近い学生（図2参照）が、学生の町内会への参加は必要であると回答している。それに対して、町内会への存在を知っているのは約3割に満たない（図1参照）のが現状である。

今住んでる場所の町内会の存在を知っていますか？（回答108人）

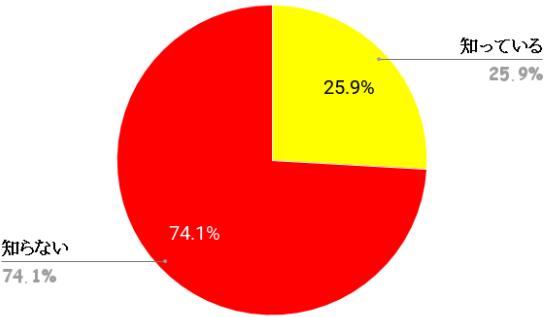


図1

学生の町内会への参加は必要だとおもいますか？（回答108人）

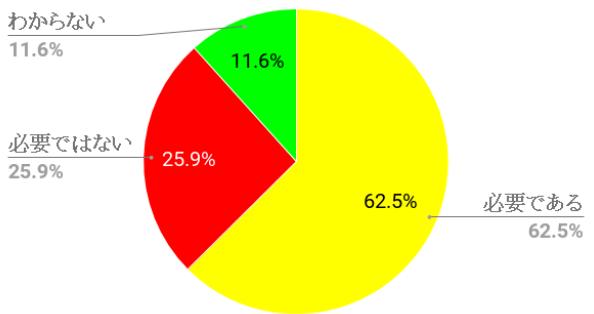


図2

この結果、学生に情報が行き届いていないという課題があることが判明した。

2. 学生の町内会参加の課題

学生が、町内会の存在を認識していないのが、一番の課題である。町内会に参加することが必要と考えている学生がいるなかで、学生に情報が届いてない。八王子市としては情報発信をしており、情報量はあるが、学生に届けるための手段が不足している。仮に、情報が行き届いたとして課題となるのが、町内会費の支払いである。苦学生が多い現状で町内会に費用を払う余裕のある学生が少ないという問題がある。奨学金の援助を受けている学生も多く、それを町内会費で回収するのは厳しい。また、4年間しか滞在しない学生も多い中で、町内の設備投資のために資金を負担したいと考える学生は少ないと考える。しかし、町内会での労働力が不足している中で、比較的時間に余裕がある学生が地域とのつながりや、地域貢献のために町内会の活動に参加したいと思う人は少なくない。学生にはお金は少ないが、地域貢献するための労働力は十分にあり、町内会への参加は大きな意義がある。

3. 学生の町内会参加のための提案

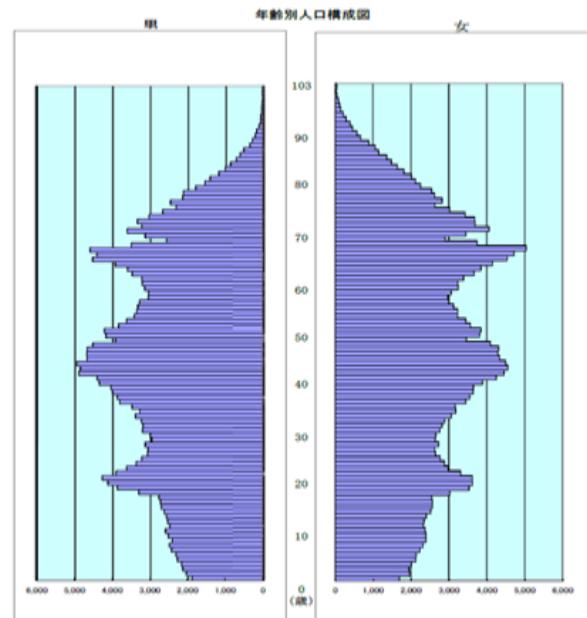
学生に情報を行き渡らせる方法として、ハガキを学生に定期的に送る仕組みを提案する。町内会の案内を記載し、ハガキを送り返すこと申し込みを完了できる工夫をすれば手軽に参加できる。町内会費の件に関しては、学生が町内会に参加する費用を無料にしてもらう。賃貸住宅に住む学生が多いため契約の際に、大家や不動産に町内会参加を促してもらうことでより町内会の存在を知るきっかけになるのではないか。

今後の展望

学生の町内会の参加を促す目的としては、学園都市八王子において、八王子市出身の学生に加え、八王子市外から来た学生も地域とのつながりを感じ、学校を卒業しても、また住みたいと思える街づくりを実現することである。八王子市の人口を調べたところ、20代後半～30代前半の人口が男女ともに少ないことが明らかとなった。(図3

参照)

図3 八王子年齢別人口構成図



大学を地域から閉鎖されたものにするのではなく、学生と地域の人々が積極的に交流する取り組みを行い、盛り上げていく。そこで学生と地域住民が知恵を出し合い、地域を活性化していくきっかけづくりを目指す。これにより、学生は第二の故郷として八王子市に魅力を見出し、八王子の発展に貢献していく価値を創造できれば、活性化していく見込みはある。

参考文献

八王子市公式ホームページ

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/hachiouji/jinko/003/p021408.html>